

のであつて、其の間に協調を保つて行く上に於て遺憾が多い。上級の管理者と下級の管理者との間並びに、同じ階級に屬する多數の隣接管理者の間に於て、道路改良上に協調を保つことの必要なるにも拘らず、之を保つに困難なるものある以上は、此の協調を保たしめる爲めの何等かの強制手段を採る必要がある。例へば、豫め今後十數年又は數十年の將來までも束縛する道路網を協議確定して置くとか、又は定期的に之を協定して、互に之を確守するとか云ふが如き方法の如きは是れである。道路の利用範圍と道路管理者の政治的地域とは互に一致するものでないといふ所に道路網の制定又は協定の必要が存するのである。

◎道路改良事業の復活

財政の緊縮をモットーとする内閣が組織された爲に、折角前内閣時代に計畫された道路改良事業は何處へやら消えてしまつた、併し夫れは、いつかは復活さるべきであることを吾人は豫言しておいた。不景氣に失業者の簇出は、其の豫言を實行せしむるに至つたことは、餘り喜ぶ世相ではないが、道路の改良さえ出来れば陰鬱な世相を轉回せしむるだけでも結構だ。

緊縮家の分家格である内務省の地方局長次田大三郎さんの口からさえも、地方起債無條件許可の聲を聞くやうに爲つたのも時代の變遷を物語る。橋を半分架け放しにしておいても構はぬ、國家財政の窮狀を救はなければならぬ、と言つた言葉が、今日此頃では橋を半分架け放ししておくやうな無自覺な知事は居ない筈だ、と言はしむるやうに變つた、此度は道路を改良しないで産業の發展を希望するやうな地方長官は一人も居ないと、言はしむるやうに變らせたものだ、否な變ること附合だ。

六年度地方費豫算編成の時期も目捷の間に在るのとき、吾人は強て産業道路を復活せよとは言はぬ、中央の此空氣を斟酌して時代に相應する豫算を編成して貰ひたい(た)。